

2012520

絵本学会 NEWS No.45

発行：絵本学会

発行日：2012年5月20日

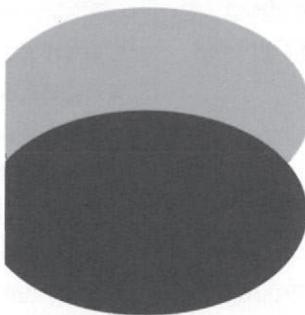
編集：絵本学会広報委員会

絵本学会事務局：〒567-8578 茨木市宿久庄 2-19-5

梅花女子大学児童文学科 香曾我部秀幸研究室内

E-mail:ehon-g@baika.ac.jp

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~ehon/index.html>



絵本学会役員選挙の結果について
絵本学会紀要『絵本学』第15号投稿論文募集について
事務局からのお知らせ
お知らせ－絵本関連展覧会など
絵本を語るそのなかに 村中李衣

絵本学会

●絵本学会役員選挙の結果について

先の2012年絵本学会役員選挙につき、選挙管理委員会(委員長：丸尾美保、委員：向井弘子・浅野法子の諸氏)より2012年3月23日付けで開票結果が報告されました。

2012年3月23日絵本学会役員選挙

投票有権者数：458名、投票数：193名

開票結果：

理事

| | |
|-----------|----------|
| 1. 石井光恵 | 139票（当選） |
| 2. 今井良朗 | 137票（当選） |
| 2. 香曾我部秀幸 | 137票（当選） |
| 4. 松本猛 | 131票（当選） |
| 5. 藤本朝巳 | 117票（当選） |
| 6. 笹本純 | 115票（当選） |
| 7. 今田由香 | 78票（当選） |
| 8. 杉浦篤子 | 75票 |
| 9. 佐藤博一 | 61票 |
| 10. 本庄美千代 | 59票 |
| 11. 宮崎詞美 | 54票 |

但 無効投票：3名

監事

| | |
|----------|------|
| 1. 佐々木宏子 | 166票 |
| 2. 竹迫祐子 | 164票 |

但 無効投票：なし

この選挙結果を受けて、新理事会を4月8日に開催いたしました。なお、6月の総会で承認を得て、新理事及び新監事が正式決定されます。

●絵本学会紀要『絵本学』第15号 投稿論文募集について

絵本学会紀要『絵本学』第15号への投稿論文を募集します。ふるってご応募ください。なお、下記投稿規程の他に執筆要項があります。執筆要項を必ず取り寄せの上、それに従って原稿を作成してください。執筆要項の請求先は事務局です。また、絵本学会ホームページからもダウンロードできます。

絵本学会研究紀要『絵本学』投稿規程

○投稿資格：絵本学会会員および準会員

○内容：絵本に関する研究論文、研究ノート、論説、報告で、未発表のもの。

【研究論文】は、研究の視点や手法、理論展開及び結論にオリジナリティや説得力が高く認められるもの。

【研究ノート】は、研究の基礎データになる資料、あるいは理論構築の可能性が認められるもの。

【論説】は、学術的な論で、注目すべき研究・作品・作家・展覧会・活動を取り上げての評論など。

【報告】は、活動紹介や文献紹介など。

○掲載採択：査読に基づき、編集委員が掲載の採否を決定する。必要に応じて編集委員の外に査読委員を依頼する場合がある。採否判定の過程・理由は開示しない。ただし、投稿者は、結果について説明を求めることができる。この場合、編集委員は申し出内容を精査の上、適正範囲内で回答する。

○執筆要領：執筆は別に定める執筆要項に従うこと。

○投稿締切：2012年9月30日(日) (必着)

○掲載採択通知：2012年12月15日(土)までに投稿者へ通知する。

◎刊行: 2012年度内
◎原稿送付先: 絵本学会事務局(郵送とする。FAX、電子メールなどによる送付は不可)

<紀要委編集委員会から>

絵本学会紀要『絵本学』へ投稿を希望される方は、執筆要項をよく読んで、原稿を作成してください。特に、原稿分量にご注意ください。絵本学会紀要『絵本学』は第1号以来、同じ書式で作成しています。はじめの半ページは、表題、執筆者名、所属、専門分野、和文・英文抄録等を記載するために使用します。

研究委員会からのお知らせ

2012年度研究助成金の申請について

2012年度の絵本研究に関する研究会などグループの活動を助成します。

助成金は、1件あたり 30,000円とし、2012年度は2件について助成します。

助成を希望するグループは、研究テーマ・研究の概要・研究代表者および構成員・発表の形態を明記し、2012年 6月 25日(月)までに(必着) 絵本学会事務局宛に郵送してください。

結果は、研究委員会で審査し、理事会での承認を得た上でお知らせします。

事務局からのお知らせ

2012年度 第1回 絵本学会理事会 議事録

日時: 2012年 4月 8日(日) 13:00から 15:30まで

会場: 日本女子大学 新泉館 4階 児童学科会議室

出席者: 中川素子(会長)、香曾我部秀幸(事務局長)、石井光恵、今井良朗、今田由香、杉浦篤子、永田桂子、長野ヒデ子、藤本朝巳
欠席者: 大橋眞由美
議長: 中川会長

○会長挨拶

○報告事項

1. 昨年度第4回理事会議事録の確認

・「会員の転居先不明にともなう除籍」について、その後、本田幸氏とは連絡が取れ、引き続き会員として所属されることを確認済み。

2. 第15回絵本学会大会について

1) 現時点での大会参加申込者は会員 36名、一般 170名であることが報告された。

2) 協賛企業の広告について

・地元の企業より協賛金の申し出があるため、大会パンフレットに広告を掲載することが確認された。

ただし広告は奥付以降の巻末にまとめ、1社につき紙面の 4分の 1程度にすること。

・大会のパンフレットに広告を入れることが可能になれば、出版社などの賛助会員が増える可能性もあるとの意見があった。

3) 大会報告書について 以下のことが確認された。

・大会全般の報告書は実行委員会にて作成する。

・文士劇、座談会、シンポジウムについては、実行委員会より報告者を指名して報告書作成を依頼する。

・ラウンドテーブル、作品発表、研究発表については、各座長が報告書を作成する。

実行委員会より、それぞれの座長およびコーディネータに依頼する。

・録音記録は必要であるが、詳細なテープ起こしまでは必要ない。ただし記録はアーカイブとして残しておく必要がある。

4) 時間帯の変更 以下のことが決定された。

・研究発表申込者が多数に上ったため、2日目の研究発表の時間帯を 30分延長し、10時 30分から 13時 00分までとする。

・それにともない、シンポジウムは 13時 45分～ 15時 45分に行われる。

・閉会式は、シンポジウムの終了直後にそのまま短時間で終了する。

5) 研究発表の時間割・部屋割について 以下のことが決定された。

・研究発表は、1日目 3部屋 6人、2日目 3部屋 15人とする。

・研究発表の時間割・部屋割および座長について。

6) その他

・大会での書籍の販売に関して、「ペペペペラン」の高野氏と交渉することが確認された。

・参加者の名札は、会員についてはネームケースを事務局より送付、一般参加者は、粘着シートタイプを使用することが確認された。

3. 各委員会報告

1) 企画委員会

・フォーラムも終了し、報告も完了している。

2) 紀要委員会

・次号紀要是研究論文 4編、研究ノート 1編、報告 1編が採用された。現在、執筆者へ初稿を送り、返信を待っている。可能な限り次号のNEWSとともに会員へ発送することを目指す。

3) 機関誌編集委員会

・『絵本BOOKEND 2011』は 400部程度が全国の図書館へ既に納入されている。

・次号は年内に刊行する。

4) 研究委員会

・次の助成金募集は、従来通り 1件 30,000円で 2件に助成とし、6月 25日(月)締切として、次号ニュースに掲載予定。

5) 広報委員会

・次号NEWSは5月 21日を発送日とする。村中李衣氏のエッセイを掲載する予定。

4. その他

1) 次期役員選挙の開票結果報告について

・事務局より、選挙管理委員からの報告が読み上げられた。

理事候補は 16名が推薦された。11名が承諾、5名が不承諾の結果、

| | |
|--|---|
| <p>11名の候補者により選挙が行われた。</p> <p>監事候補者は、4名が推薦され、2名が承諾、2名が不承諾の結果、2名の候補により選挙が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 投票有権者数 458名、投票数 193名で、開票結果は以下の通りとなった。 <p>理事選挙: 1. 石井光恵 139票(当選)、2. 今井良朗 137票(当選)、 2. 香曾我部秀幸 137票(当選)、4. 松本猛 131票(当選)、5. 藤本朝巳 117票(当選)、6. 笹本純 115票(当選)、7. 今田由香 78票(当選)、8. 杉浦篤子 75票、9. 佐藤博一 61票、10. 本庄美千代 59票、11. 宮崎詞美 54票。無効投票 3。</p> <p>監事選挙: 1. 佐々木宏子 166票、2. 竹迫祐子 164票。無効投票なし。</p> <p>2) 第 14回絵本学会大会での余剰金の寄附について事務局より報告された。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大正大学より返金があった余剰金 80,914円は、財団法人大阪国際児童文学館と毎日新聞社主催の「東日本大震災で被災した子どもたちに本をおくる『いっしょだよ』キャンペーン」に寄附した。 <p>○審議事項</p> <p>1. 会員の入退会の承認(敬称略)</p> <p>新入会員: 末房志野、石原祐子、大竹紀美代、八幡眞由美、林絵美、藤重育子、横山仁雄、仲田公彦 退会者: 加藤純子、浴靖子、佐藤英和、川越ゆり、川端眞由美、野口由美子、岩下明子、佐藤由喜子、皆川美恵子</p> <p>2. 第 15回絵本学会大会定期総会議案について</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 15回絵本学会大会定期総会に向けて、2011年度活動報告、2011年度決算、2012年度活動計画書、2012年度予算案を検討した。 <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本学会賞(仮)について 学会賞を行っている他学会の情報をを集め、設立の方向で検討していくことが確認された。 ・HPについて 以下のことことが討議された。 各委員会ごとに活動を行っている現状において、ホームページの管理は非常に難しい。 学会の動向を把握している事務局に近いところにサーバーをおくことがベストではあるが、大学からサーバーを借りができるかどうか、事務局移転とともに毎回変更することの可否等、さまざまな問題が含まれている。 専門業者に外注することの可能性も含め、今後の検討課題である。 ・次回理事会は現理事と新理事の合同理事会となる。 6月 2日(土) 10時から 12時まで、場所は八千代座交流館内会議室を予定。 | <p>絵本学会新理事会(準備会) 議事録</p> <p>日時: 2012年 4月 8日(日) 15:30 – 17:00</p> <p>会場: 日本女子大学 新泉館 4階 児童学科会議室</p> <p>出席者: 石井光恵、今井良朗、今田由香、香曾我部秀幸、笹本純、藤本朝巳、松本猛</p> <p>○報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員選挙の結果報告 現事務局より選挙の結果報告があった。 選出された 7名および会長指名理事候補 3名の計 10名は、6月 2日の絵本学会総会における承認を得て、理事に就任することが確認された。 <p>○審議事項</p> <p>1. 会長・事務局長の選出 新理事候補の互選により、絵本学会次期会長に松本猛氏、事務局長に石井光恵氏を選出した。</p> <p>2. 各委員会の長、委員の選出について審議され、以下の結果となった(敬称略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 企画委員長 今田由香 2) 紀要編集委員長 香曾我部秀幸 3) 機関誌編集委員長 藤本朝巳 4) 研究委員長 笹本純 5) 広報委員長 今井良朗 <p>3. 指名理事の選出 ・選挙で推薦のあった佐藤博一氏と本庄美千代氏を指名理事候補に推举することが承認された。 (後日、両名ともに承諾を得た。) ・もう一名は絵本作家を推举する方向で検討し、松本次期会長が人選・依頼をすることになった。 (後日、絵本作家の武田美穂氏が就任することを承諾された。)</p> <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各理事間の連絡方法について、既成のメーリングリストを使用すると迷惑メールが混入する可能性が高いことから、メールでの連絡の際にはその都度 Cc によって理事全員に送ることが確認された。 ・次回理事会は現理事と新理事の合同理事会となる。場所は八千代座交流館にて、10時から 12時までを予定している。 |
|--|---|

お知らせ

●絵本関係展覧会情報

●安曇野ちひろ美術館

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原

0261-62-0772, 0261-62-0774(Fax)

<http://www.chihiro.jp/azumino/>

【展示】ちひろ・花の肖像

12.3.1(木) – 5.8(火)

【企画展】国際アンデルセン賞受賞画家

アンソニー・ブラウン展 –ゴリラが好きだ–

ちひろ美術館コレクション 人になった動物たち

12.5.11(金) – 7.10(火)



●ちひろ美術館・東京

〒177-0042 東京都練馬区下石神井 4-7-2

03-3995-0612, 03-3995-0680(Fax)

<http://www.chihiro.jp/tokyo/>

【展示】ドキュメンタリー映画公開記念展 ちひろ 27歳の旅立ち

ちひろ美術館コレクション 奇想の絵本 –夢幻とナンセンス–

12.5.23(水) – 8.26(日)

●板橋区立美術館

〒175-0092 東京都板橋区赤塚 5-34-27

03-3979-3251, 03-3979-3252(Fax)

<http://www.itabashiartmuseum.jp/art/>

【企画展】2012イタリア・ボローニャ国際絵本原画展

12.6.30(土) 8.12(日)

●祈りの丘絵本美術館

〒850-0391 長崎県長崎市南山手町 2-10

095-828-0716

<http://www.douwakan.co.jp/museum>

【常設展】大道あやコレクション 生きとし生けるものへの賛歌

【企画展】太田大八 絵本原画展

12.2.28(火) 5.27(日)

●射水市大島絵本館

〒939-0283 富山県射水市鳥取 50

0766-52-6780, 0766-52-6777(Fax)

<http://www.ehonkan.or.jp/>

【展示】高畠純絵本原画展

12.6.1(金) -7.29(日)

【展示】葉祥明絵本原画展

12.8.1(水) -9.27(水)

●イルフ童画館

〒394-0027 長野県岡谷市中央町 2-2-1

0266-24-3319, 0266-21-1620(Fax)

<http://www.ilf.jp/>

【企画展】北原照久コレクション~昭和の我楽多展覧会~

12.4.20(金) -6.26(火)

●絵本美術館&コテージ 森のおうち

〒399-8301 長野県安曇野市穂高有明 2215-9

0263-83-5670, 0263-83-5885(Fax)

<http://www.morinouuchi.com/index.html>

【企画展】望月通陽ことばの森から展

12.5.18(金) – 7.17(火)

【企画展】いせひでこ 絵本原画展~青の世界

12.7.20(金) – 9.18(火)

●軽井沢 絵本の森美術館

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町風越公園 182

0267-48-3340, 0267-48-2006(Fax)

<http://www.museen.org/ehon/index2.html>

【企画展】「マザーグースと童話展~ひらいたかこの世界~

12.3.1(木) – 6.11(月)

●木城えほんの郷

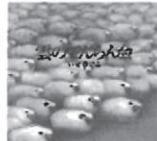
〒884-0104 宮崎県児湯郡木城町大字石河内 475

0983-39-1141, 0983-39-1180(Fax)

<http://service.kijo.jp/ehon/>

【展示】馬場のぼる絵本原画展

12.4.21(土) – 6.3(日)



●国立国会図書館 国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49

03-3827-2053(代表), 03-3827-2069(音声案内), 03-

3827-2043(Fax)

<http://www.kodomo.go.jp/index.jsp>

【企画展】日本の子どもの文学 –国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み

2.19(土) –

●世田谷文学館

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10
*03-5374-9111, 03-5374-9120(Fax) "
<http://www.setabun.or.jp/>
【企画展】地上最大の手塚治虫展
12.4.28(土) - 7.1(日)



●武蔵野美術大学 美術館・図書館

〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736
*042-342-6004, 042-342-6451(Fax) "
<http://www.mauml.musabi.ac.jp/>
【展示】ムサビのデザイン II
12.5.14(月) - 8.18(土)

●ワイルドスミス絵本美術館

〒413-0235 静岡県伊東市大室高原 9-101
*0557-51-7330, 0557-51-7331(Fax) "
<http://www.metm.co.jp/>
【展示】こどものための聖書物語
【展示】ワイルドスミスの青い鳥

寄贈図書のお知らせ

2011年 10月～ 2012年 3月の間に、以下の図書が絵本学会に寄贈されましたのでお知らせします。(到着順)

社団法人読書推進運動協議会より

「読書推進運動協議会の50年」(DVD) (社団法人読書推進運動協議会 2011年)

国立国会図書館国際子ども図書館より

「平成 22年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録 日本の児童文学者たち」(国立国会図書館国際子ども図書館 平成 23年)

ムーゼの森 軽井沢絵本の森美術館より

「2011年夏の企画展 えほん動物園～あべ弘士の描く世界～」(軽井沢絵本の森美術館 2011)

会員の岩田英作氏、マューあき氏より

「おはなしレストラン、はじまるよ！～読み聞かせに

よる人間力の育成～」(島根県立大学短期大学部松江キャンパス 平成 24年)

絵本を語るそのなかに

村中李衣

澤田精一さんからバトンを渡されました。澤田さんの語られた「1冊の絵本をめぐってのクリティシズムにはなかなかお目にかかるない」ということばが胸に刺さり、絵本を語るその中に、なにかひとつでも、読むという精神の営みと向かい合ったことばを残したいと思うのですが、そうそうたやすいことではなさそうです。

下私は、女子受刑者と共に絵本を読みあう時間を持っています。6回にわたって行う改善指導プログラムで、参加した受刑者は、たくさんの絵本の中から最終的に1冊の絵本を選んで自分の声での絵本を朗読し、録音したテープを残してきた家族のもとに届けるのです。朗読という言い方は適切ではない気もします。6回のセッションを通して彼らは「見えない相手にも自分の思いを声で届けられる」ことを学び、マイクを通してではあるけれど、間違いなく「見えないせいつなれか」を絵本を読みあっているのですから。

さて、このプログラムを通して、私は絵本の中に潜んでいる「声」の力を再認識しました。ご存知のように絵本は、絵とことばによって成り立っています。(視覚表現メディアとして、多くの視覚表現要素と物語によって成り立っているという言い方もできます。中川素子「絵本のメディアリテラシー」『絵本の事典』より)

見落としがちなのは、絵本には、こうした絵、ことば、画面構成のすべての要素の中から立ち上ってくる「声」があるということ。この「声」に耳を澄ませた時、眠っていた読み手の身体が蘇ってくることがあります。

耳を澄ませる、といふこなれた言い方をしました。けれど、作品の奥に潜む声に耳を澄ませるということはとてもシンプルな行為なのに、〈教育的読みの経験〉とか〈多すぎる刺激〉とか、さまざまなことが妨げになって、実際はとても難しいのです。しーんと静かに読み聞かせしてくれる人の声を聞くことが「絵本に耳を澄ます」ということではありません。

このプログラムに参加したAさんは、なかなか自分が声に出して読んでみようと思う絵本がみづからず、100冊近く並べられた絵本たちの前で、毎回難しそうな顔をしていました。「なるべく簡単でかわいい絵本を」と言いながら、実際に読んでみると、低音が他者よりも響く自分の声を持て余し「なんかちがう・・・」。そんな彼女が、五味太郎の『そらはだかんば』(偕成社)に出会って、少しずつ変わっていきました。最初のうちは、見開きの左のページに描かれる男の子がひとつずつ洋服を脱いでいく様を「するり」「するっ」「すぱっと」「つるん すー」と擬音を手掛けりに読んでいくことにいっしょにけんめいな様子でしたが、そのうち、画面には姿を見せ右ページにことばだけで四度登場する「見えない母親」のことばに、心が傾いていく様子がわかりました。「ライオンくん！ おふろですよ はだかんばに なりなさい」「ひとりで ちゃんと

そらはだかんば!

五味 太郎●作

8

ぬげますか?」「あらいやだ! クマくん はやく はだかんばになりなさい」「いたずらっこのかたろうくん からだを ちゃんと あらうのよ」という四つのセリフ。「なりなさい」「あらうのよ」と命令口調で、どう考えても、べたべたあま~い母親のことばとは思えません。Aさんは、このきっぱりした歯切れのよいことばを声に出して読みながら、ああ母親は息子といっしょにお風呂場にはいないんだ、これはお風呂場のドアをはさんだ向こう側とこっち側の会話なんだ、ということを実感したようです。それは、「見えないけれどしっかりわが子とつながっている」自信があるからこそ多少ぶっきらぼうにも思える母親のことばかけが生きるのだという発見にもつながっていました。そして、改めて絵を見やると、おかあさんがお風呂場の外から声をかけてきた時だけ、主人公の男の子は、他の場面と同じ正面を向いているにも関わらず、まんまるい目玉を声のする方にちらっと動かしているではありませんか。「ふふふ、おかあさんの言う通りにはならないいたずらっこだけど、やっぱりおかあさんのことは気になるんですね」とAさん。一見単純に見えるこの絵本に潜む男の子と母親の大事な距離感に思い至った時、傍らにいないからこそ注げる「深い信頼と愛情」を自分の声にのせてわが子に届けてみようという決心がついたようでした。

この本を「見えない息子」といっしょに読みあうと決め、マイクの前に座った日、Aさんは初めて「私の息子の名前『そら』なんです。」と語ってくれました。え~、なんで早くそれを言わないの? と一瞬思いましたが、そうではないんですね、きっと。絵本のタイトルに息子の名前が入っているからこの絵本を選んだのではなく、この絵本に、異空間を結ぶ親子のやりとりの奥行きと信頼の声を聞き取ったから、ようやくそこに自分のわが子への思いをのせる決心がついたということなのではないでしょうか。もちろん絵本タイトルの「そら」は掛け声であって、子どもの名前ではない。でも、この絵本に潜む「声」がそれを重ねることを許してくれていると、何度も何度もページをめくりなおし読みこんでいくうちにAさんは確信したのだと思います。そういう読みに耐えられる絵本だったのだということに、恥ずかしながら私もはじめて気づきました。

Aさんが、録音を終えて言いました。

「外から教えられたことは、どんないいことでも、釈放されて、外の世界のもっと強烈な誘惑にあったら、きっと忘れてしまうような気がする。でも、ここで絵本を読みながら見つけたのは、自分の内側の声だから、これは、忘れようがない。絵本のおかげでみつけたこの声は、きっと私の鏡になる。」

彼女の、自分と世界を結ぶ大きな手掛けりがある、と思いました。絵本を語るその中に。